



「Work 2010」 170×90×90cm・土・木・2010

展示風景/倉敷市立美術館/2010



私にとって「美術」とは、様々な物事の意味を知るための「方法」です。美術史に置き去りにされたとも言うべき、人や物を写実するという単純な行為は、時代錯誤だとしても、私にとって必然であり続けます。/片山康之

PROFILE

略歴
1978 岡山県生まれ / 現在：倉敷市児島在住

個展
2011 「Plant Worm」 Gallery Suchi (東京)
2012 「Redirect」 Gallery Suchi (東京)
2013 「works2010-2013」アートガーデン (岡山)

グループ展など
2010 「共鳴する美術2010-ストーリー・テリング」(倉敷市美術館)
「アートの今2010-具象表現の現在」(天神山文化プラザほか)
2011 AHAF香港2011 (香港)、アート台北2011(WTC台北/台湾)
2012 AHAF香港2012 (香港)、アートフェア東京2012
「重力」 Gallery Suchi (東京)、アート台北2012(WTC台北/台湾)
PLUS+ULTRA2012 (青山スバイラル/東京)
2013 第10回犬島時間 (犬島/岡山)、「重力2」 Gallery Suchi (東京)

受賞
2008 岡山県美術展山陽新聞社賞
2009 岡山芸術文化賞準グランプリ / マルセン芸術文化賞



「Plant Worm」/陶、木/2010/個人蔵



展示風景/瀬戸内市立美術館/2014

片山の人体表現は異なる素材の取り合わせでできている。たとえば土と自然木である。異なる素材の出会いや合体はどちらでもあってどちらでもない別な質感を生んで新奇な印象をもたらす。彼は自分が表現活動をするための今日的な理由をそういう出会いに求めながら探索しているように思える。とすると異なる素材は土と自然木にこだわらなくてもよいのだろうか。土は思うがままに形を特定できるし、逆に自然木は形を不特定に解放してくれる。だとしたら、土でなくて「特定された形」、自然木でなくて「不特定に開放してくれるもの」もあり得るか。彼は「彫刻」という手業を心柱に据えながら、異なる素材の出会いから触発される現代(人)のイメージを、いわば尻取り遊びでもするようにつぎつぎ追っかけながら螺旋状に上昇していく、そんな作家のように思える。

平野重光 (美術評論家)



「赤ずきんとクリームソーダ」/250×70×70cm/FRP、陶、木など



REDIRECT 2012-2 / 陶、木



展示風景/犬島時間2013



REDIRECT 2012-1/陶、木



無題/2013/個人蔵



THE NIGHT/2012/個人蔵



Drawing/45×45cm/2012



Drawing/45×45cm/2012/個人蔵

TEMPLE SELECTION 2014 完成形の可塑性

天プラ・セレクションは、岡山県ゆかりの美術作家を個展形式で紹介する、天神山文化プラザの企画展シリーズです。
片山康之は、倉敷市児島在住の彫刻家です。粘土を中心に、木、金属など様々な素材を組み合わせる手法で独特な表現世界を展開しています。片山の作品の中でしばしば登場する腫を閉じた人体は、木の根や異物と一体化し、一見グロテスクにも見える光景でありながら不思議な美しさをたたえています。そこには「美術史に置き去りにされたとも言うべき、人や物を粘土で写実するという単純な行為」を通じて片山が見いだした世界が表されているのです。
本展のテーマは「完成形の可塑性」。可塑とは、指で押した形をそのままに保つ粘土のように、永久変形を生じる物質の性質のことです。一方、生物学的には環境条件に応じて変化する能力を指します。進化したつづける片山の現在進行形の挑戦をご覧ください。

12/3(水) - 12/7(日)
10:00-18:00 * 最終日は16:00まで
岡山県天神山文化プラザ第3・4展示室/入場無料

ARTIST LOUNGE
会期中は終日、展示会場内にあるロフトスペースに作家が滞在し、作品の解説などを随時行います。



天神山文化プラザ
Tenjin-yama Cultural Plaza of Okayama Prefecture

TEL 086-834-2400 FAX 086-834-2401
URL http://www.templaza.info/